

平成30年度学校経営計画

練馬区立開進第四小学校長 河崎晃二

1 教育目標

人間尊重を基調とし、小中一貫教育9年間で目指す豊かな人間性と創造性を備え、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい人間像の実現を目指し、次の目標を設定する。

【9年間で目指す人間像】

知性にあふれ 正しく判断できる人
心豊かで 品格のある人
健康で 行動力のある人

【教育目標】

- よく考える子 (問題解決に主体的に取り組み、自分の考えを表現できる子)
- 思いやりのある子 (自他の生命を尊重し、人が喜ぶ姿を見て喜べる子)
- 体を鍛える子 (強い体と心をもち、最後までやりとげる子)

2 学校経営の視点 (目指す学校像) 一人一人が大切にされ、笑顔輝く学校

- 子供たちが輝き、笑顔あふれ、明日が待ちどおしい学校
(開四小で学べてよかったと言える学校)
- 家庭・地域社会と連携した学校
(開四小に通わせてよかったと言える学校)
- 教職員が個々の力を発揮し、協働して活動する学校
(開四小に勤務してよかったと言える学校)
- 安全で美しく、安心して学べ、集える学校

3 目標達成に向けての方策

よく考える子 (問題解決に主体的に取り組み、自分の考えを表現できる子)
確かな学力の向上を目指して (分からないゼロ)

- ① 「分かる」「楽しい」「考える」授業に向け、「1単位時間におけるねらいを明確にした授業」→「テスト」→「検証」→「授業の見直し・改善」のサイクルで授業改善を行い、計画的かつ工夫のある授業力の向上を図る。
- ② 学習を通して、児童の思考力・判断力・表現力・活用力を育成する。
- ③ 「授業中の約束」の徹底を全学級で進める。
- ④ 校内研究と修養の充実を図る。
- ⑤ 基礎・基本となる知識・技能を通して「問題解決能力」を育成する。
- ⑥ 学力調査の結果を生かし、学力向上を図るために個別指導のさらなる充実を図る。

少人数担当教員と担任、少人数指導講師及び学力向上支援講師、学校生活支援員とも連携し、組織的に個別指導を進める。また、ベーシックドリルを有効活用する。

- ⑦ 読書の習慣をつけるために、朝の読書タイム（火曜日）を年間通じて行い、本を読む楽しさを味わわせ、望ましい読書習慣の形成に努める。
- ⑧ 調べ学習の充実を図る。（図書室の充実及び読書活動の一層の充実、区立図書館との連携）
- ⑨ 「学習環境」「言語環境」「読書環境」柱に、学校・家庭での環境整備に取り組む。
- ⑩ 子供たちの家庭学習の習慣化と充実のために「学年×20分」を目安に家庭と連携する。

思いやりのある子（自他の生命を尊重し、人が喜ぶ姿を見て喜べる子）
豊かな心の育成を目指して（いじめゼロ）

- ① 人権尊重教育を基盤にいじめ・暴力を撲滅し、お互いを認め合う人間関係を培う。
- ② 生活指導の充実と基本的な生活習慣の指導徹底を図ることを通して、規範意識を育て、自尊感情を育てる。
- ③ 「**あ**かるく **い**つも **さ**わやかに **つ**げよう」を年間の重点目標として、あいさつを重視した学校生活を過ごす。
- ④ 異学年齢集団による活動を通して、「人が喜ぶ姿を見て喜べる子」を育成する。
- ⑤ 特別の教科「道徳」に向けて、授業の充実を図る。そのため、道徳の授業作りを学ぶ研修を進める。
- ⑥ 学級活動の充実を計画的に図り、温かい人間関係を育て、一人一人に達成感を味わわせることができるようにする。
- ⑦ いじめ防止対策委員会がいじめ調査結果を分析し、いじめの未然防止、早期解決に組織で対応する。
- ⑧ 年間3回のいじめ防止に関わる授業を行い、「命」「友達」「いじめ」等を主題とした授業を行う。

体を鍛える子（強い体と心もち、最後までやりとげる子）
体力向上を目指して（運動ぎらいゼロ）

- ① 体力テストの結果に基づき、各学年の発達段階に応じた運動に挑戦させる。
- ② 持久走、なわとびなど、体力をつける活動を計画的に継続的に行う。
- ③ 年間35時間のオリンピック・パラリンピック教育を実践し、世界に目を向ける。
- ④ 「食育」を推進し、日常の給食指導の充実を図り、養護教諭及び学校栄養補助員の先行性を生かして、健康や食に関する指導に取り組む。
- ⑤ 栄養士及び給食調理主事と協力しながら、児童が食への興味がもてるように、季節感のある給食作り、アレルギーへの対応、食事のマナーの指導などに努力する。
- ⑥ 夏季水泳指導の級別指導を充実させ、体力向上を図る。
- ⑦ 保護者向け「健康の増進、体力向上リーフレット」を活用し、「早寝・早起き・朝ご

はん」の奨励をする。家庭と連携して生活リズムを見直し、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。

特別支援教育（みんな大好きを目指して）

- ・ 教育相談体制の充実を図る。いつでも、どんなことでも気軽に相談できる雰囲気作りに努める。また、保護者・SC・通級学級等と連携し個に応じた適切な指導を組織的に行う。
- ・ 校内委員会の運営をより充実させるとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に、心のふれあい相談員やスクールカウンセラー、学校生活支援員、特別支援専門員、巡回指導員、巡回心理士および外部関係機関との連携の下、特別支援教育のさらなる推進に積極的に取り組み、児童一人一人の教育的ニーズに応える適切な指導と必要な支援を行う。
- ・ どの子にも優しい授業の実施を目指し、ユニバーサルデザインを意識した授業を展開する。また、特性に配慮した授業を実施する。
- ・ 特別支援教室の開室に向けて準備を進めるとともに、児童の情報を共有し、丁寧な個別指導を行う。

その他の方策

- ・ 生活安全・交通安全・災害安全教育を通し「自分の身は自分で守る子」を育成する。「セーフティ教室の充実」「情報モラル教育」「地域安全マップづくり」「薬物乱用防止教育」「避難訓練の充実」を進める。
- ・ 中学年の「外国語活動」高学年の「外国語教育」に向けて、段階的に準備を進める。
- ・ 小中一貫教育の連携校として、計画に沿って連携する教科についての取組や体験授業、職場体験等の取組を行う。
- ・ 積極的な情報公開で保護者との連携を深める。学校・学年だよりホームページを中心に、児童のがんばる姿を発信する。
- ・ 月の第2土曜日（6月～2月 8回）は、公開とし、授業公開、道徳授業地区公開講座や行事などを入れる。
- ・ 保護者の学校公開、保護者会への積極的な参加を呼びかけ、学校の様子を十分知ってもらうとともに、保護者との円滑な連携を図るきっかけとする。
- ・ 服務事故防止校内規定の徹底と自己チェックを強化する。
(個人情報漏洩ゼロ・会計事故ゼロ)
- ・ ワークライフバランスの推進（週在校時間60時間未満・定時退勤日の推進）

4つの教育活動基準（SNCE）

- 子供たちに安全で安心できるものであるか（Safety 安全）
- 子供たちの「知・徳・体」を育むものであるか（Nurture はぐくみ）
- 保護者の皆様が納得できるものであるか（Consent 納得）
- 最小限で最大の効果を生むものであるか（Efficiency 効果）